

令和5年度の市教研生徒指導部の活動について

本年度研修について

研修テーマ「一人一人に生きる力を育む生徒指導」 ～児童・生徒理解を生かした生徒指導体制の推進～

どの学校でも、「落ち着いて席に着いていることができない子供」、「指示されたり注意されたりすると感情的になる子供」、「気持ちの浮き沈みが激しい子供や、子供の言い分だけを聞いて感情的に学校に電話をかけてくる保護者」、「はっきりした理由は思い当たらないが、登校渋滞の状態になってしまう子供と、その家庭・保護者」…さまざまな対応に苦慮していることと思います。これらの課題に加え、いじめ問題への取組、不登校生徒の増加、SNS等でのトラブル、ヤングケアラーの増加等、生徒指導をめぐる状況は近年大きく変化しています。

それらを受け、令和4年12月に生徒指導提要が改訂されました。その中で、生徒指導とは、「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」であり、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えること」である生徒指導の目的を達成するために、児童生徒一人一人が「自己指導能力※」を身に付けることが重要であると示されています。

生徒指導を通して、児童生徒が自己指導能力、つまり「生きる力」を身に付けていけるように、我々教員が効果的な指導・支援をしていかなければなりません。そのためには、児童・生徒理解が欠かせません。子どもの心身両面に関わる理解、学校・家庭・保護者の様子からの理解、専門諸機関からの助言などを含め、チームとしてあらゆる面から児童・生徒理解をした上で、指導・支援を繰り返していくことが、児童・生徒に自己判断力と自己決定力を育てることへとつながっていきます。

多様な背景を持つ児童生徒が多くいます。一人一人の子どもたちへの、より深い児童・生徒理解が大変重要になっています。各学校でこのことが十分に理解され、生徒指導が機能していくことで、一人一人が生き生きと学校生活を送るなかで「生きる力」が育つと考え、この研修テーマを提案します。

※ 児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を生徒指導の実践上の視点選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力